

## 哀悼

### クラウス・ザガスター Claus Sagaster (1933–2025)

ドイツ連邦共和国ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学（ボン大学）名誉教授、ならびに国際モンゴル学会名誉会長クラウス・ザガスター教授には、今般ご逝去の報に接し、モンゴル学界は一大損失を被るに至った。

東洋学の泰斗にして国際的モンゴル学の重鎮たるザガスター教授は、ライプチヒ大学東アジア学部においてJ. シューベルト、P. ラチネフスキイ両教授の指導のもと、モンゴル語・チベット語・中国語・サンスクリット語ならびに東洋文化の諸分野を修め、その後ゲッティンゲン大学およびボン大学にて、G. デルファー、W. ハイシッヒ両教授のもと、トルコ学・モンゴル学・チベット学の研鑽を積めた。ここに教授は、中央アジア言語文化学の第一線を担う学者としての道を拓かれたのである。

教授は『ソボド・エリヘ』『白史』等のモンゴル史史料を精査し、これを通じてモンゴル史研究と原典学の双方に貴重な成果を遺された。また、モンゴルの白権文書に関する研究は、今日に至るまで文献学の典範と仰がれている。

さらに、教授はボン大学付属中央アジア言語文化研究所の創設とともにモンゴル語・チベット語およびその文化分野の講座を担当し、修士・博士課程の学生を導き、多くの優れたモンゴル学研究者を世に送り出した功績はまことに大きい。1982年には研究所長に就任され、モンゴル・チベットの宗教文化交流、モンゴル文字史料の研究、モンゴル民族の知的・精神文化の諸領域において、教育・研究活動を精力的に推進された。また教授は、モンゴル歴史文献、モンゴルおよびチベットの仏教造像研究、ならびにモンゴル民族学の領域において多くの重要著作を著し、国際モンゴル学の発展に卓越した貢献をなした。

国際モンゴル学会の諸事業にも終始篤く支援を寄せ、国際会議にも積極的に参画された教授を、2011年、同学会は会長に推戴し、国際モンゴル学界を統率・指導する重責を担っていただいた。

モンゴル学研究者の良き師であり、温厚篤実なる人格者であったクラウス・ザガスター教授が、国際モンゴル学の発展のために尽くされた功績、また遺された学術的遺産は、我々の心に永く深く刻まれるであろう。

国際モンゴル学会

事務総長

教授 D. ザヤーバータル

ウランバートル市

2025年11月17日